常徳院義尚公詠草 三十首

兼良公御点

義尚公詠草

天華文庫

春

かすみゆく空に霞とこけ道も
こゝ松こえて色みえぬゆゑ
折らく梅さうけゆゑ山里は
松と桜とわかて春ゝも
雲まよふうしめくれなしゝ白ふや
花さく山のかをるのあさ風
草と木も葉のましに色清て

しも乃光を花よりはなれは

｜咲花もうき世の若みとりまよひとりん

さそいちるやまふきの花

夏

ち鶴は先山郭公はしらくるり

うつゝや衣きぬくのそて

｜聞ときのこのゝ名そてよ郭公

ひとしほまそてんとやらん

あさまれとのこるは蛍乃光まても

守まつりのひとそはくりは ふ

秋

｜月もこの庭に住すみぬ鳴しや

流れしらつゆ秋乃こぬ袖

萩原やとにす風のゆまり

さら秋のめにも志るかみてさね

秋之光をそをはおくも霧乃松

月ふうしひそくてなかれ
雪ふるまゝにとしそかくれ思の人に
竹のうちかひく嫁のまれ月
かくみやりみうらは志らてまわりて
よるうれツ日そ松ふくまぬ陽

冬

これはやらひうさかうし埋火に
あきの衣をとまれつ縁

日うけて液ら溶けみゆる岩ノ縁も
ゆるぬ水やこほりなる流人
やまかは世のうれしさたぬると
あまり日よかる雪のふらぬ

なかあつまるまうくなつ吹風に

恋

うりとそく人の力すまち
人の名とうしおうつ涙い我袖し

わすは源とこもわすれいねまし
くるしと茂とんよしみししも
わすれてしうたのこそめそさ
風とこれまりみしてよかまかして
さくよるかまれ小車乃喜
うつといふあぬやしよんとるひよ
られ一よそのりし乃霙あり
さまくるよぬうこそして妹の宅

なみこのかにほいすみけれ
今やまつるつまかくるし年月と
こしひれためのなつけありとは

雑

めてしそ入りし山をはるよいま
おもひ新いの梢のかけ
天乃川のむひいは雨の雲よ成て
雲よしあつく橋乃一とら

なかりける宿のあるじに事よせて
まつもいてそれ猿のさけは
閑 杉くもや月日やさきやわかれやと
身はくらさて年とし深かは
花ぬしそ咲るれしもまさるよ
なかへて猶よのこゝろ首そ
らまよふ雲を山ありしれしん煙
みるもかはこととまかね

たちひらし末とはまつらて奥山の
うつろんよ花月ゆんるは

天華文庫

愚題十首